

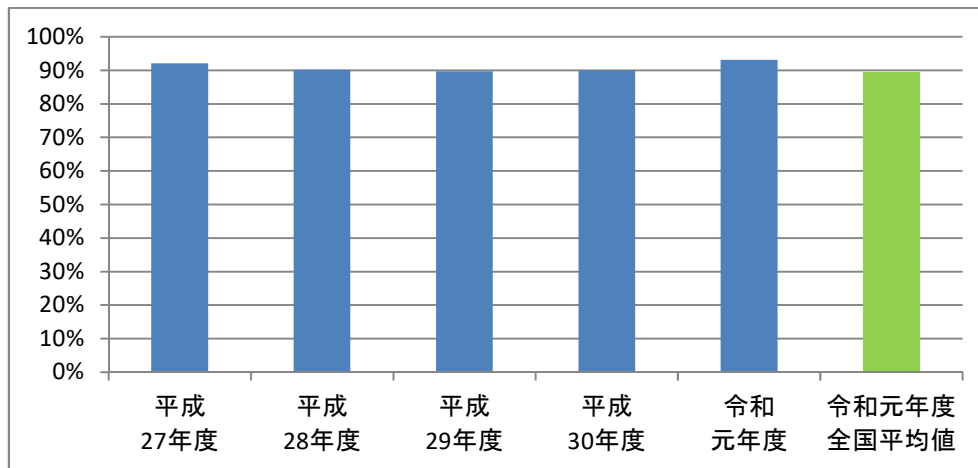
23.手術あり肺血栓塞栓症予防対策実施率

項目の解説

肺塞栓症は、エコノミークラス症候群ともいわれ、血のかたまり(血栓)が肺動脈に詰まり、呼吸困難や胸痛を引き起こし、時として死に至ることもある疾患です。長期臥床や下肢または骨盤部の手術後に発症することが多く、発生リスクに応じて、早期離床や弾性ストッキングの着用などの適切な予防が重要になります。

当院の実績

平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和元年度 全国平均値
92.11%	90.18%	89.73%	90.02%	93.14%	89.52%



全国平均値は国立大学附属病院の平均値です。

定義

肺塞栓症リスクの高い患者に対する予防対策の実施割合です。



九州大学病院

KYUSHU UNIVERSITY HOSPITAL